

古事類苑

帝王部八

即位下

即位之殿

〔代始和抄〕御即位事

即位といふは、天子受禪の後、まさしく南面の位につかせ給て、はじめて百司萬民に龍顔を見えさせ賜ふよし也、その月はさだまれる月なし、其所はむかしより大極殿の高御座につかせ給てこの事をおこなはる、まかるに冷泉院は紫宸殿に出御ありて即位の儀あり、この御門は御邪氣をいたはらせ賜ひしによりて、大極殿までは行幸なかりしにや、又後三條院治暦四年の御即位は、大極殿焼失の後、いまだ造作なきによりて、太政官廳にして行れ侍り、其後安德天皇治承四年の御即位も紫宸殿にして行はる、これも大極殿焼失せしが故なり、後鳥羽院元暦元年は又太政官廳にして即位の事有、それより後は一向に官の廳にて行はるゝ事となれる也、

〔日本書紀雄略四〕三年十一月甲子、天皇命有司設壇於泊瀬朝倉、即天皇位、遂定宮焉、

〔日本書紀天武九〕二年二月癸未、天皇命有司設壇場、即帝位於飛鳥淨御原宮、

〔續日本紀元明四〕慶雲四年七月壬子、天皇即位於大極殿、

〔類聚國史職官九十九〕大同四年四月戊子、皇太弟受禪、即位於大極殿、皇太弟謂嵯峨天皇

〔三代實錄光孝十五〕元慶八年二月廿三日甲寅、天皇即位於大極殿、

〔日本紀略六圓融〕安和二年九月廿三日丁卯、天皇即位於大極殿、又見扶桑略記